

日南町におけるコンパクト・ヴィレッジ構想に関する現状分析
一鳥取県日野郡日南町の事例研究 その1一

コンパクト・ヴィレッジ 公共施設集約化
中山間地域 県境地域

準会員 ○渡部 巴菜*
正会員 細田 智久**
同 中園 真人***
同 牛島 朗****
同 三島 幸子****

1. 研究の背景・目的

日本では少子高齢化が進んでおり、山陰地方をはじめとして、中山間町村などの人口減少が著しい。昭和の町村合併を通じて集落単位で形成された山間町村においても、都市部でのコンパクトシティとは別の意味でのコンパクトなまちづくりが必要とされている。

日南町でも若者の都心への進学・就職による人口減少が著しく、高齢化率47.5%と少子高齢化が進んでいる。そこで、日南町では中心部に公共施設を集約させ、無駄の少ない生活や行政を行う“コンパクト・ヴィレッジ”を目指し活動が行われている。

本研究では、ここ 20 年にわたりコンパクト・ヴィレッジを進めている日南町において、その中心地区である生山・霞地区での公共施設や宅地開発などの計画経緯・現状の整備状況・現在の課題を明らかにする。

2. 研究方法

(1) 日南町公共施設の調査と中心地区のマップ作成 生山・霞地区の公共施設を調査し、日本地理院の地図を参考に中心地区のマップ・プロット図を作成した。

(2) 日南町実態調査 日南町統計情報から人口動態、広報にちなん 20 年分からわかる主な公共施設の整備についての調査を行なった。

(3) 日南町役場へのヒアリング 企画課職員の方にヒアリングを行なった。

(4) 日南町民へのヒアリング 実際に霞・生山地区内外で暮らしておられる町民へのヒアリングを行なった。対象者は旧町村エリアや幅広い年齢構成を配慮した。

3. 日南町の歴史と現状(図1~3)

日南町の歴史として、まず大正時代の合併で日野村、山上村、大宮村、阿毘縁村、多里村、福栄村、石見村の7か村となり、その後1955年に一部が合併し、伯南町と高宮村が誕生し5町村となった。そして、1959年に5町村合併が実現し現在の日南町が誕生した。

日南町の人口は1950年の16,045人から減り続け、1975年には初めて1万人を切り、現在では4,765人とピーク時のおよそ3割にまで減少している。さらに、小中学校の児童生徒数は図2より1960年から1980年の20年間で減少が著しく、その後も緩やかではあるが減少していき2016年現在では1960年の1割にも満たなくなっている。また高齢化率は47.5%で全国平均の26.7%を大きく上回っている。このことから日南町では人口減少と併い、少子高齢化が進んでいることがわかる。

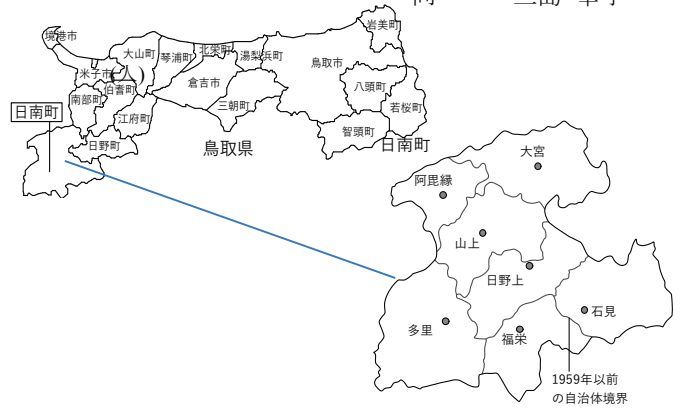


図1 日南町の位置と昭和の合併前の自治体境界

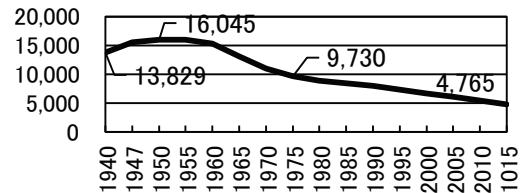


図2 日南町総人口の推移

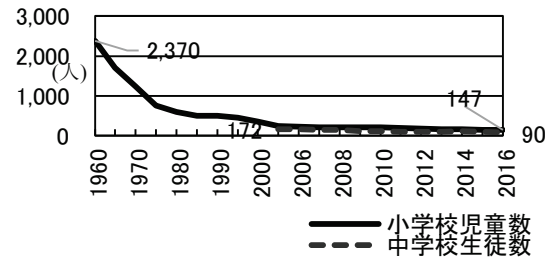


図3 日南小学校・中学校の児童生徒数の推移

4. 中心地区の課題・整備一覧と考察(表1・図4)

2009年に町民と町職員とで開催された町ワークショップ資料より、地区毎にテーマを設けたことがわかる。大田原地区は林業関連の跡地があり、図4に示すように様々な機能を持つ施設が集約されており、特に2015年に完成した道の駅を中心に町内外の人が集まる地区である。課題としては子育て支援センター環境の充実・町が持つ土地の有効活用が挙げられる。また北野原地区は保育園・小中学校の教育施設を集め、子どもがのびのびと学習できるように安全な通学路の確保・放課後子ども教室の環境を充実させることを課題とする。駅のある生山地区は地元商店・利用者の減少と駅舎の有効活用を課題とし、役場や文化センターなどの施設が置かれた霞地区

は文化センター裏の広場スペース利用を課題とし、人と情報が集まる地区として機能することを目指している。

町広報誌のバックナンバー20年分を整理したところ、霞地区への公共施設の集約化は1973年統合の日南中学校から始まり、ショッピングセンターや町営団地などが整備された。その後鳥取県西部地震をきっかけに被害を受けた日南町庁舎の移設新築、生山駅店舗リニューアル、統合小学校新校舎、高齢者施設が設置された。また2010年には日南町中心地域整備構想が発表されたことで、中心部への公共施設集約化が一層進められたと考えられる。人口減少が続く日南町の公共施設整備の始まりは、1973年の中学校統合からである。中学校統合時の全校生徒数は172人と全国的に見れば少ないが、現在の生徒数のおよそ倍の数であった。また、高齢化率が高いため、デイサービスや特別養護老人ホームなどの福祉介護施設の整備が進められてきているが、今後も病院などを含めた医療介護サービス施設の整備は必要不可欠となるだろう。さらに2015年“道の駅にちなん”竣工後、多い日は2300台

表1 日南町の近年の施設整備一覧表

1973年 4月	日南中学校 竣工
1995年 合併特例法	
1997年 2月	日南町デザインサービスセンター 起工式(茶屋)
10月	ショッピングスクエア・パセオ 完成・オープン
合併特例法の改正により平成の大合併が始まる	
1999年 4月	町営・こぶし団地、県営・伯南団地 完成
2000年10月6日 鳥取県西部地震(震度6弱)発生 役場被災	
2001年 8月	生山トンネル 開通式
11月	日南町庁舎・地域情報交流センター 上棟式
2002年 4月	生山ステーションアベニュー ぶらら オープン
5月	日南町庁舎竣工式
2005年~2006年にかけて市町村合併がピークを迎えるが日南町合併せず	
2005年 1月	特養ホーム あかねの郷 完成
7月	生山道路開通
2008年 4月	グループホーム 虹の郷 竣工式
2009年 4月	日南統合小学校新校舎 竣工式
2010年 日南町中心地域整備構想(概要)が発表される	
2011年 11月	公園 生山ひろば・ふらっと 除幕式
2013年 4月	新子育て支援センター 竣工式
2015年 9月	道の駅 にちなん 日野川の郷 安全祈願式
11月	三町汚泥再生処理センター 建設安全祈願式

の車が道の駅を通過・利用している。地域の特産であるトマトやリンゴの加工食品や町民の手芸品などが販売され賑わっている。庄原市や新見市などへの通過点として

<大田原地区>

- (課題)
- ・町有地の有効活用
 - ・子育て支援センター環境の充実

- <居住機能>
 - ・集合住宅
 - ・若者、高齢者のための住宅
 - ・宅地開発
 - ・福祉型住宅(ケア付き、グループホーム)
 - ・独居老人用の冬期住宅
- <観光交流機能>
 - ・農産物、特産物の販売
 - ・日南のアピール
- <地域内交流機能>
 - ・高齢者の集えるところ
 - ・人材交流センター(人材発掘、育成)
- <商業施設>
 - ・コンビニ・テナント(起業用)
 - ・町内起業の情報提供
- <交通機能>
 - ・バスターミナル
 - ・駐車場
- <子育て支援機能>
 - ・支援センター
 - ・放課後子ども教室
 - ・遊具のある公園
- <運動・健康増進機能>
 - ・屋根付き運動場

<生山地区(駅)>

- (課題)
- ・地元商店の減少、利用者減少
 - ・JR生山駅舎の情報コーナーの有効活用

- <観光情報提供機能>
 - ・観光案内センター
- <人と情報の集まる場所>



道の駅 日野川の郷

生山駅

北野原地区

日南病院

図4 日南町中心地区の主要施設と課題点の整理図

ではなく、一休みしたいと思える場所となってきていると考えられる。

5. 日南町役場へのヒアリング結果・考察(表2)

もともと霞地区の現在の役場から中学校のあたりまでは全て田畑であり、およそ50年の間に霞地区一帯の景色が大きく変わった。中心部の開発開始時期は中学校の竣工年の1973年からで、まず本校舎から始まり、体育館やプール、駐車場と次々に開発が進められた。現在は主に道路整備や既存建物の長寿命化を図る整備が行われている。また、商店などの利用者が減少していることへの対策として道の駅を建設し、観光客を集めて活気づける整備も進められている。現在は新規施設の整備は未定であるが、多雪地域でもあるため現在の施設を維持するための改修が順次進められている。日南町では生山・霞地区がここ100年近く中心部として町民全体から認識されていたため、施設を集約する際にコンセンサスが得られやすかったと考えられる。このように、地域の施設を一つの場所に集約するには、地域住民・町民のコンセンサスが必要不可欠となる。

6. 日南町民へのヒアリング結果・考察(表3・図5)

ヒアリングの結果、中心施設にある施設では公共施設より商業施設の利用が多いことが明らかとなった。食品・日用品はスーパーのパセオ、ホームセンターのコメリの利用頻度は週に1~3回と全体的に利用頻度が高い。公共施設利用は文化センター内の美術館や図書館・ホールの利用が主となっている。町のイベントや学校行事が開か

れているため利用が多いと考える。また、病院は日南病院ではなく米子の病院の利用が主であることがわかる。これは施設整備も専門医も充実している米子の病院を利用したいことに加え、病院のついでに買い物なども一緒にできるというメリットがあるためである。公共施設集約のメリットは、施設が集約しているため用事を一度に済ませられることなどが挙げられた。また、小中学校の統合については、子どもの人数が増えることで、お互いに学力面や体力面などを刺激し合うことで学力や能力が

表2 日南町役場への主なヒアリング結果概要

生山・霞地区に関して	開発開始時期	1973年(中学校統合より)				
	開発経緯	①本校舎②屋内運動場③技術棟④寄宿舎⑤バス車庫⑥教員住宅⑦総合運動場⑧町民体育館 ⑨町民プール⑩駐車場				
	開発前の様子	・役場から中学校あたりまでが田畑 ・町誕生とともに公共整備が進む				
	整備計画内容	①日南町中心地域整備構想 ②第5次日南町総合計画後期計画 ③日南町総合戦略				
	ゾーンごとの課題点と今後の整備計画	課題点	生山駅周辺(道の駅など)	大田原(住宅・集客交流)	北野原(教育施設)	役場・文化センター
			・周辺道路・駐車場の整備	・道の駅周辺整備(住宅・集客交流)	・町民体育館の更新	・既設建物の長寿命化
			・観光スポットまでの整備	・既設建物利用者との移転など合意形式	・その他域施設再編	
	今後の整備計画	・未定	・当面現状維持	・社会体育館の整備を行う予定	・当面現状維持	
	公共施設集約について	メリット	・町民のコンセンサスが得られやすい			
		デメリット	・各地域の賑わいが衰退			
現状の課題点	・人口減少による利用者の減少に予知各施設の運営難 ・商店の品揃え価値の魅力がないため町外での消費が多い ・商店街の空洞化による賑わい低下					
町全体に関して	旧町単位でのコンパクト化	・大田原ゾーンの一部分が未整備のため引き続き整備構想を行う ・生活に不可欠なインフラ整備の計画・実行				
	中心部に集約する機能と旧町単位で残す機能	"地域に住みながら、生活に必要な機能は中心部に置く"というスタンスで維持				
	2040年の人口推計	国立社会保険・人口問題研究所：2500人台(現状ベース) 日南町：3400~3600人台(人口動態に変化を生じた場合)				
	インフラ整備についての補遺	・国及び県管理の道路を中心に整備 ・町管理の施設はひと通り整備されたため、修復など施設の超寿命化を図る				

表3 日南町民への主なヒアリング結果概要

	ヒアリング対象者・在住地区	①日野上地区 10代男性	②大宮地区 60代夫婦	③石見地区 30代女性	④石見地区 10代女性	⑤多里地区 80代夫婦	
施設利用	在住年数	50年以上	8年	12年	12年	70年	
	町内の公共施設利用	文化センター(学校行事など)(数回/年)	文化センター・美術館(数回/年)	-	日南図書館(文化センター内)(1回/週)	役場(必要に応じて)	
	町内の施設利用	パセオ・ローソン	コメリ・道の駅	パセオ コメリ ローソン ガソリンスタンド	パセオ・ローソン(1回/週)	パセオ・住設・コメリ(1回/週)	
	町外の施設利用	ホープタウン(2回/月)	まるごう(西伯) ホック・ダイレクト・シンシン・100均(岸本)	日吉津イオン 外食(米子)	日吉津イオン(2回/月)	ホープタウン	
	病院の利用	歯科・眼科(各1回/月) →米子 怪我→日野病院 風邪などの急病→日南病院	定期的な通院(眼科・耳鼻科・歯科) →米子労災病院	日南病院の利用は減少 →小児科が週2回しかしない	歯科・眼科→米子(各1回/月)	・医大(1回/月) ・日南病院(1回/2ヶ月)	
	町に足りない施設	コンビニ	産婦人科 病院	コインランドリー	駅	開業医	
	これからも残したい施設	コンビニ	商店(パセオ・コメリなど) 歯科(生山)	-	コンビニ、パセオ	桜ヶ瀬会館(公民館) 多里小学校(別用途で活用)	
	施設の集約化について	メリット	-	・土地管理難しい老人集約 ・人数の確保	したいことが一気に終わって時短となる	-	・子どもの学力向上 ・コメリ・パセオなど便利
		デメリット	-	・部落の過疎化 ・水路・農地の維持	小学校・保育園の統合 →各地域の活気減少	-	・子どもの声が聞こえなくて寂しい
	印象に残っている公共施設整備	日南統合小学校(小学校5年時に統合)	-	河川プール(福栄)	日南統合小学校(小学校4年時に統合)	-	-
車所有・公共交通	車の所有・利用	3台(乗用車・軽トラ) 農業用運搬車 1台	2台(乗用車・軽トラ) 運搬車(トップカー) 1台	-	-	軽トラ(1回/週)	
	通勤場所・時間	-	-	日南総合センター(車で20分)	-	若松鉱山(ご主人) 広瀬鉱山(奥さん)	
	公共交通の利用	通学・町内へ遊びに行く	利用なし	利用なし	通学(毎日)	将来的にデマンドバス利用するかも	
その他	将来日南町に住み続けるか	戻る予定	病氣・怪我をして体が不自由になれば米子に移住	残る予定	戻らない	災害起きない限り残る	
	公共料金	-	米子と変わらない	高いと思わない	-	高いと思わない 冬季はガス・電気高め	
	町の整備計画を知っているか	-	知っている(日南チャンネル・町広報誌)	-	-	知っている(広報など)	

向上するのではないかという回答を得た。その反面、各地区に小学校がなくなり子どもの姿を見なくなった、声が聞こえなくなり寂しさを感じるという意見もある。このように各地区の施設や活気がなくなり過疎化を心配する声や、高齢化によって水路や農地の維持を心配する声も聞かれた。

図5より町営バスは小学生のスクールバスを兼ねて全部で5路線あり、全路線が中心部を経由している。各地区が谷によって別れ、他地区に行くためには一度中心部にアクセスする方が便利である。有料のデマンドバスも運用されている。また、日南町は島根県奥出雲町（横田）、広島県庄原市、岡山県新見市にも接しており、米子市を含め4方面に行くことができる。しかし、冬季は通行規制がされるため、米子以外では中心部の施設利用が主となる。どの地区の方も特に米子の施設利用が月に2・3回と多く、病院や買い物などでの利用が目立った。

7. まとめ

①日南町役場の将来の整備構想と今までの整備・現在の課題がわかった。どこの地区からもアクセスしやすく、約100年前から中心地区として認知されている生山・霞地区に様々な公共・商業施設を集約しており、今後も新たに建設する場合は中心地区に集約する予定である。

②生山・霞地区には保育園、小中学校、役場、文化セン

ター、商業や郵便局、農協、道の駅、JR 駅舎、病院・福祉施設、住宅地、ガソリンスタンドなど日常生活に必要な機能のほとんどが集約されている。

③日南町に現在足りない、将来的に必要な施設・機能としては商業施設と医療サービスの施設・機能が多く挙げられた。商業施設は新たに作ることは難しく、今あるスーパーやホームセンターを残して行くことが重要となる。病院は特に命に関わる大切な機能であるため、日南病院内の環境を充実させることも含め、町民のかかりつけの役割や急病対応の機能維持が必要とされる。

参考文献・あとがき

- ①日南町ワークショップ資料（第1回～第3回）2009年
- ②細田・鈴木研究 鳥取県西部地区における廃校利用と法規対応の実態分析、日本建築学会中国支部研究報告集第39巻、No.519、pp.605-608（2016年3月）
- ③日南町中心地域整備構想（概要版）2010年、日南町史1984年
- ④広報「にちなん」1997年1月号～2017年5月号
- ⑤コンパクト・ヴィレッジ事例 茨城県美浦村（テーマ：地域交流拠点の整備）岡山県新庄村（テーマ：空き家を活用した村内の機能集約）
- ⑥雲南市市勢要覧（2017年）
- ⑦雲南市都市計画マスタープラン（2014年）
- ⑧雲南市中心市街地活性化計画（2016年12月）

本研究の調査に際し多大なご協力をいただきました日南町の住民の方々、日南役場担当者の方、雲南市役所担当者の方に心から謝意を表します。

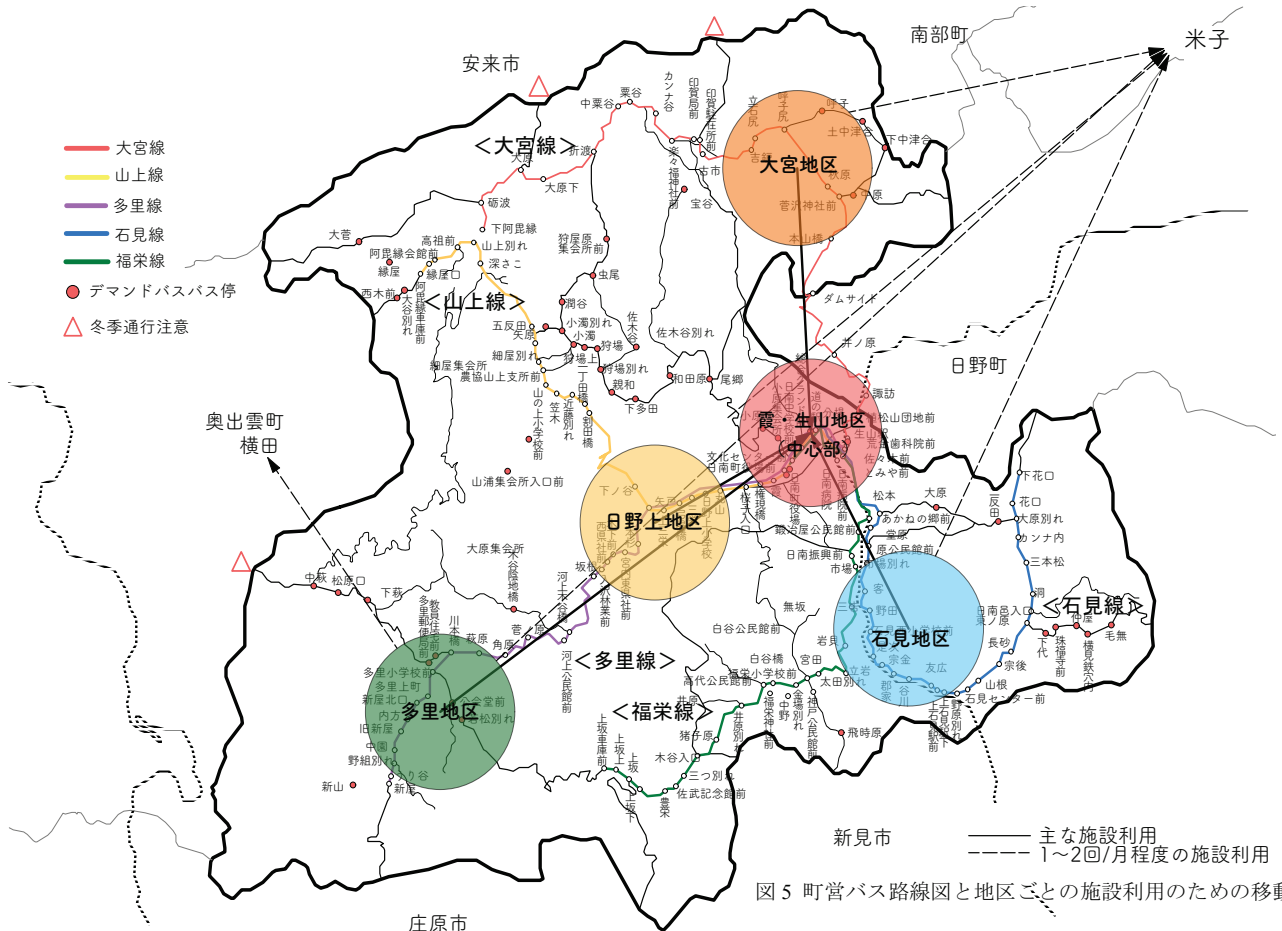


図5 町営バス路線図と地区ごとの施設利用のための移動傾向

* 米子工業高等専門学校建築学科 5年
 ** 米子工業高等専門学校建築学科 准教授 博士(工学)
 *** 山口大学大学院創成科学研究科 教授 工博
 **** 山口大学大学院創成科学研究科 助教 博士(工学)

* Student, Dept. of Architecture, National Institute of Technology, Yonago College
 ** Associate Prof., National Institute of Technology, Yonago College, Dr. Eng.
 *** Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.
 **** Assistant Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.